交通バリアフリー通信　vol.7
『島根で広がる誰もが住みよいまちづくり』

中国運輸局では、バリアフリーやユニバーサルデザインなどの分野において、先進的に活躍されている団体等を訪問し、当事者目線の情報発信を目指して、交通バリアフリー通信を発行しています。

第７回となる今回は、プロジェクトゆうあい代表理事の田中隆一さんにお話を伺いました。世間の動きに対して常に気を配り、新しい試みに挑戦し続けるゆうあいの取組について教えていただきました。

【今回紹介するのはこの方！】

田中隆一さん

NPO 法人
プロジェクトゆうあい代表理事

ゆうあいではどのような取組をされているのでしょうか？

障がい者の就労支援とバリアフリーの推進を連携させた様々な取組を行っています。

点字名刺や音声案内システムの普及による視覚・聴覚障がい者支援事業、バリアフリー観光情報誌の発行・バリアフリーツアーセンターの運営による観光バリアフリーの推進事業、バスマップ作成等を通じた公共交通の活性化・まちづくり事業などに取り組んでおり、それらの事業に障がいのある方に携わってもらっています。バリアフリーの推進事業そのものが、障がいのある方の働く場づくりにもなっています。その他にも、古本屋を活動スペースとして、引きこもりや登校拒否などの困難を抱える若者の居場所・中間就労の機会の提供事業などこれまでに無かった事業にいち早く取り組み、活動の幅を広げてきました。

▲その幅広い取組が評価され、これまでに各方面から何度も表彰されてきました。

いろいろな事業に取り組まれているのですね！
特に公共交通に関連したものだとどのような事業があるのでしょうか

「どこでもバスブック」の作成に取り組んでいます。バスに乗ってどこかへ行こうと思ったとき、どのバス停で乗り、どこで降りればいいのか、途中どのバス停に停まるのか、乗り換えはどうすればいいのかについて、知っておいた方が安心ですよね。しかし、これらの情報をインターネットで調べようとすると、複数のサイトを見ないと知りたい情報をすべて知ることができないというケースが非常に多いです。どこでもバスマップでは、そのようなことがないように、運賃、経路、乗り換え情報などすべての情報をわかりやすく掲載しており、この本を見るだけで、スムーズに目的地までたどり着けるようになっています。現在、松江圏内のすべてのバス路線を掲載した「松江どこでもバスブック」のほか、観光スポットへの行き方をまとめた「縁結びどこでもバスマップ」等も作成しており、こちらは島根県内の観光案内所などで配布をしています。

また、５年前から「バス停クリーンアッププロジェクト」に取り組んでいます。このプロジェクトは、汚れていて見えにくいバス停のボードを一枚の大きなシールで一新しようというものです。バス停名や時刻表を見やすくするだけでなく、路線図と様々なイラストを掲示することで、バスでの移動をより楽しく、より便利にしています。これまで、広告主になってくださる方とバス事業者との協賛というかたちで２０ヶ所のバス停を生まれ変わらせてきました。現在さらに、２０１８年９月の松江ツーリズム研究会観光大賞の受賞賞金を活用して、松江市内のバス停１０ヶ所に子供たちの「松江のまちにちなんだ絵」を掲載しようとイラストを広く公募しているところです。

／路線図もシンプルで＼
わかりやすい！

公共交通関連の事業に取り組むようになった
きっかけなどはあるのでしょうか？

５年前に取り組んだバリアフリーマップ「松江てくてくマップ」の作成が、活動拡大のきっかけになったのではと思います。バリアフリーマップといえば障がいのある人でも安心して外出できるようにするため、施設内のスロープや多目的トイレなどの有無を地図に記載したものが一般的ですが、同じ車いす利用者でも車いすの大きさにより通行できる幅が異なっています。そのため、幅のある車いすの方でも困ることのないよう「松江てくてくマップ」には、施設情報だけでなく歩道の道幅を記載しています。当事者の目線で具体的な状況を伝えることで、多くの方に好評をいただくことができました。

（Web 版松江てくてくマップ　http://tekuteku-matsue.com/）

今後の構想などがあれば伺いたいです！

先ほどの「松江てくてくマップ」の改訂を検討中です。作成が５年前なので、今はもう街のようすが変わってしまっているところもあります。改訂版を作成することで、より正確なマップにしたいと思っています。

また、宍道湖の周りをタンデム自転車（２人乗り自転車）で回る体験ができるイベントなどを開催できればと思っています。タンデム自転車を利用すれば視覚障がいのある方でも自転車に乗ることができます。平成 29 年度から島根県内の道路でタンデム自転車に乗ることができるようになったということもあって、これから取組を広げていくことができればと思っています。

他には、情報が足りずスムーズに移動できないというのもバリアの一つです。検索サイトで調べるだけで、行きたい場所にどう行けばいいのか、いくら払えばいいのか分かるようになるというのも情報のバリアフリーに繋がるということで、「標準的なバス情報フォーマット（GTFS）」への対応にも注目しています。GTFS とは、バスの時刻表、料金、経路などの情報を整理するための形式で、経路検索サイトで掲載しやすいかたちにしてあるものです。この形式でコミュニティバスのデータをつくって経路検索サイトに提供すれば、コミュニティバスを利用する経路も検索サイトで調べられるようになります。ゆうあいでも試験的に、松江市内のコミュニティバスの情報を GTFS に変換する取組をおこなっています。

バリアフリーだけでなく幅広いお話をしてくださった田中さん。
世間の動きに常にアンテナを張っているから、
今までにない事業にどんどん取り組んでいけるのですね。

編集後記

インタビューを終えた帰り道、宍道湖に沈む夕日を見ることができました。宍道湖に沈む夕日は日本の夕日百景にも選ばれた絶景です。松江観光協会のホームページでは、夕日が見える度合いを示す夕日指数が公開されています。松江に行かれる際はぜひチェックしてみてください。